

**高**

尾小学校の子ども落語「にこにこ寄席」が再開する。発表の場を失ったまま四か月を過ごしたが、八月九日ようやくの再始動である。同じ知らせを受けた大阪の詩人里みちこさんから次のメールが届いた。馴染みのない方には解説を要するが紙幅の都合で割愛する。私一人で読むにはもったいないのでご本人の了解を得て転載させていただく。

「『切分の季節』

みなさん！落語のお礼にまあいるいケーキをよくくださるのです。が、ぼくたち、子供は七人。

「七」つに分けるのは難しいんですよ。なんとって、

三六〇度を七で割ったら、ええと…、ええと…：前のあなた助けてくださいよお？（参加者の誰かが）

「51度余り3です！」

となるてえと、目分量ではうまく分けられない。どうしても大きい小さいができてしまう。あっちのほう

が大きい…、と横目で見ながら食べるのは切ないものがあります。だからでしょうか。「七」と「刀」で

「切」の漢字ですね。漢字は、よくできてますね。

一人増えて「八」人で分けるってえのは易しいんですよ。だって、半分の半分の半分で、目分量で切りやすいでしょ！「八」と「刀」で「分」という漢字になっ

てますね。

みなさん！来年春には一人増えるんですよ。「児童」ではなく「爺童」です。高尾小学校で落語を始めた宮森健次先生は、定年後高尾小学校の落語爺童になります！

なあんの珍しくはありません。15年前には、奥出雲の三澤小学校には、58歳の「婆童」、つまり婆さん児童が小学校3年生として、ランドセル背負って通った前例があるんですから。

で、来月八月九日の落語最後には、オコフレしなから、宮森健次先生のごあいさつ！

新しい世界に「

」。

「コナ・ルネッサンスを願ひ、「七」のパーツ入りの漢字「慮り」を、お馬さんに乗ってパカパカ想像力を遊ばせてみました。

まったく新しい「楽語」「落ちない・学楽語」が生ずるといいですね。」

さて、あいさつを求められた。返歌でお許しを。

爺童に出る幕なしと心得よ

分ちがたきの七こそ尊し

婆童さんこと里みちこさん、申し訳ありません。

## 夕焼け通信1271号 2020.8.3

〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-402  
miyaken@me.com gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/  
編集 宮森健次



専業ババ奮闘記（その2）17

### 木幡智恵美

懐妊（1）

広島に帰る車二台を送ったあと、JRと高速バスで帰ると時間待ちしている間に、二男が帰ってきた。「写真より男前やん」というIの言葉に照れながら、「母がいつもお世話になってます」と返した二男。Iと会話する私を、普段の「お袋」と違う人のように感じているようだった。同窓会が終わってからも、体の方は今一つで、武道館に行つて稽古をしたものの、途中で息があがり、先生に申し出て帰るなど、不調はまだ続いた。

そんな中、娘の第三子懐妊が分かった。ほんの初期だが、つわりが始まっている。

一週間後、少し調子が良くなった気がするので武道館に行った。車を停めて外へ出たら、隣の車から剣道着を着た男性が降りてきた。K先生ではないかと前から思っていたけれど、なかなか声を掛けられずにはいた。いい機会だ。「あの、K先生ではありませんか」思い切つて声を掛ける。「はい、そうですが」と返されたので、「先生には娘が大変お世話になりました」武道館へ向かいながら、十二年前のことを話した。「ああ、あの時の。確か、娘さんは体格のいい、お母さんはスリムで」覚えてくださつていました。「それで、娘さんはお元気ですか」と言われるので、再発もなく、結婚して母親になつていと伝える。「それは良かった」としみじみ語る口調に、やはりあの時の娘の状態は深刻だったのだなと改めて感じさせられた。K先生の見立てで発見が早く、すぐに総合病院につなげてくれたから、今の娘がある。そうして、三人目の子どもも授かった。元気に生まれてきてほしい、そう願ひながら稽古をしたせいか、体の動きはスムーズで、九割方回復した気がした。

検診を終えた娘が、寛大、実歩と共に我が家に寄つた。「予定日ね、一月十九日だよ。どう思う？」えっ、夫の誕生日と同じじゃないか。

**30代フリーター** やあ、ジイさん。  
9・11同時テロのときも、3・11原発事故のときも、そして今度の新型コロナウイルスが広がったときも、「世界はこれまでとは違うものになる」とよく言われた。

**年金生活者** それを言ったのはたいいインテリだ。現状がくつがえることを望む習性があるからな。観念を相手にすることをなりわいとしているインテリは現実を否定しないではいられない。観念は現実の上になり立っているからだ。より良き未来を求める左派・進歩派のインテリも、古き良き時代への復古を願う右派・保守派のインテリも、現状を否定したがっている点では共通している。

**30代** コロナ後の世界は、それ以前からの変化があらわになるだけだとも言われた。

**年金** 9・11も3・11も当初の予想ほど世界を変えなかつたという反省からかもしれない。

9・11や3・11は各国の治安対策や

必要とするようになり、都市を誕生させた。

**30代** その都市が招き寄せた災厄のひとつが疫病の流行だ。平安京という当時の大都市で、その退散を祈るために始まったのが京都・祇園祭だといわれている。

**年金** 疫病の流行は現代においてもなお災厄であり続けている。それをもたらず「密」が、世界中の人びとによって、これだけ強く忌避されたのは、コロナ以前にはなかったことではないか。今度ばかりはそれが一時的なことにとどまらず、ある程度まで定着する可能性がある。

なぜなら、コロナ流行のかなり前からすでに「密」の窮屈さを回避しようとする現象が社会の諸場面で見られるようになっていたからだ。その典型的な例が映画館の変化だ。全席指定となり、昔よくあった立ち見姿は消え、座席と座席の間は隣の客と肘が触れ合う心配がないほど拡張された。

観客がそれだけの処遇を要求するよ

エネルギー政策に変化をもたらしたが、世界の一般の人びとの日常を一変させたわけではない。これに対して、コロナは国家に保健衛生行政の変更を迫つただけでなく、一般の人びとに生活の変容を強いた。マスクの着用、手洗いの励行、「3密」の回避といった「新しい日常」に匹敵するような生活の変化は、9・11のときも3・11のときもなかつた経験だ。

その点では、コロナ後の世界は、インテリよりも一般の人びとにとって変化の落差が大きいと受け止められているはずだ。インテリが天下国家に目を向けがちなのに対して、一般の人々は常に自らの生活を第一に考えるからだ。

**30代** 「新しい日常」は定着するの

**年金** 政府が「3密」を避けるよう呼びかけるようになって、多くの国民は自分たちが今までどれだけ「密」な生活を送っていたかを実感させられたはずだ。その「密」が限界に近づき、

うになったということが出来る。この要求は個人がそれに相応する権力を手にした結果にほかならない。その権力は消費の過剰化に駆動されて国家から個人に分散したものだ。

**30代** 「密」は都市の持つ力の源泉だ。それが敬遠されるようになったら都市は衰退する。

**年金** 今より風通しはよくなるだろう。「密」の担い手はサイバー空間に引き継がれる。コロナで広がり出したリモートワークはその先駆けといつて

「疎」へと転換していく世界史の流れをコロナは映し出しているのかもしれない。

**30代** それこそインテリの願望じゃないのか。

**年金** 現在のような「密」な社会は人口の密集する都市が出現して初めて成立した。農村しかなかったそれ以前の時代、さらに農村もなかつた狩猟採集の時代は「疎」であることが常態だった。

都市が出現したのは、人口の密集が生産、流通、消費に便利だからだ。狩猟採集の時代には生産も流通も消費もほとんどなかつた。少人数の仲間ごとに自然の恵みを取って山分けしていた。

農耕が始まり、それによって得られる物は単なる自然の恵みではなく、生産物になった。それらは狩りの獲物や木の実などと違って、長期の貯蔵ができる。それによって流通が可能になり、消費が生産から分離した。

生産力の向上が、農業だけでなく、それ以外の産業でも進むと、生産・流通・消費のシステムは、大量の人口を

いい。

**30代** コロナでも変わらない米欧追隨の日本的な体質も指摘された。

**年金** 新型コロナウイルスによる人口当たりの死者数は欧米にくらべるとはるかに少ないのに、ニューヨークやパリでの感染の急拡大、死者数の急増が伝えられ、識者と呼ばれる専門家、非専門家たちが「今に日本もそうなる」と言い出すと、少数派だったマスク着用者たちがまち多数派になった。

日本の医療界も政府も国民の大多数も、世界標準は欧米にあるとなかば無意識のうちに思い込み、被害は少ないのに対策は準欧米並みでコロナに臨んだ。

緊急事態宣言の解除後に開かれた大阪府の専門家会議では「推移を見る限り、（宣言の前後で）感染の収束スピードは一定で、日本では自然に減つたとみるのが妥当だ」とする計算結果（中野貴志・大阪大教授「原子核物理学」が報告されたが、それは「日本標準」になることなく、欧米主導の世界標準が維持されたまま今に至っている。

ニュース日記 749  
**中村 礼治**

## 新型コロナウイルス は何を変えるか